

目次 index

超スマート社会の到来に向けて	2
文部科学省 科学技術・学術政策研究所長 川上 伸昭	
特別インタビュー	
公立はこだて未来大学 美馬 のゆり 教授インタビュー ～理系女子の人材と地方創生の新しい仕組み～	3
デザインによる異分野連携 ～京都工芸繊維大学 KYOTO Design Lab における社会課題解決に向けた大学改革の挑戦～	7
ナイスステップな研究者から見た変化の新潮流	
株式会社ジーンクエスト 高橋 祥子 代表取締役インタビュー	11
Spiber 株式会社 菅原 潤一 取締役兼執行役インタビュー	15
レポート	
地方創生の Horizon (前編) 地方創生と起業環境 －大学発ベンチャーデータを用いた鶴岡における地域イノベーション進展過程の分析－	20
第 2 調査研究グループ 上席研究官 新村 和久	
国・地方自治体は以前から地域イノベーションを活性化させるための施策に取り組んできたが、全国一律施策により十分に地域性を引き出すに至らなかったなどの反省点が指摘されている。本稿では、大学発ベンチャーの創出や、地域性を生かした街づくりを進展させている鶴岡市に着目し、鶴岡市の地域イノベーションの進展フェーズごとに、産学官金の寄与を明らかとするとともに、大学発ベンチャー情報を基点に、地域イノベーションの兆しの観測を試みた。	
第 10 回科学技術予測調査の概要と社会実装に向けた取組 －環境・資源・エネルギー分野－	26
科学技術予測センター 特別研究員 村田 純一、上席研究官 浦島 邦子	
本分野で重要度の高いトピックスは、鉱物資源、水資源、汚染の除去、観測・予測技術などで、具現化されるには政府による研究開発の推進が重要な役割を果たすが、例えば JST では、戦略的創造研究推進事業「先端的低炭素化技術開発 (ALCA)」を実施している。同プログラムにおける各々のテーマと関係の深い第 10 回科学技術予測調査のトピックスを対比したところ、その多くは 2030 年までに社会実装する予測結果となった。	
世界各国の科学技術予測活動	
ブラジルの予測を担う NPO 組織 CGEE	33
科学技術予測センター 上席研究官 相馬 りか	
ほらいずん	
画像の不正処理の検出ツール開発と オープンサイエンス時代のベンチャービジネスの可能性	35
科学技術予測センター 上席研究官 林 和弘	
科学技術の社会実装・社会イノベーション展開の新潮流	
『聞き書きマップ』を利用した子どもの防犯活動の普及に向けて	36
科学警察研究所 犯罪行動科学部犯罪予防研究室 原田 豊 特任研究官	